

(環境) 常磐東小学校 3年

緑とともに生きる

平成24年5月～平成24年11月

1 学校の目標

- ・ 緑豊かな故郷の自然に働きかけ、自ら課題を見つけ、自力で問題を解決しようと主体的に考える児童の育成を図る。
- ・ 美しいものや自然の神秘に感動する感性を磨き、正直で誇り高い生き方を究明する心身ともに健康な児童の育成を図る。

2 本校の特色

本校は山間にあり、緑豊かな自然に囲まれたところに立地している。学校のすぐ前を清らかな青木川が流れ、そこには学校管理の「せせらぎの広場」がある。「せせらぎの広場」は、夏に川遊びの集会を開いたり、四季を通し、理科や社会科、総合的な学習の時間に足を運んだりする、身近な施設となっている。また、学校の東門を出たところには、「めだか池」がある。メダカを始め、ヤゴ（トンボ）やカエル、ドジョウなどの水生生物が多く生息している。さらに、学校の裏手には山があり、「常東（ときとう）ランド」として、遊歩道が整備されている。春から夏にかけては、朝方にウグイスの鳴き声が学校の中まで響き渡り、時折ニホンザルも学校の敷地内に出没することもある。

また、本校は小規模校で、1学級（1学年）が5～13人という構成であることから、一人一人にきめ細やかな指導ができる点も特色である。豊かな環境と小規模校のよさを生かし、本校では、総合的な学習の時間の目標を「心豊かに生きるひがしっ子の育成～学び豊かな総合的な学習の時間の創造」としている。

3 実践の概要

(1) 学校およびその周辺での生き物採集と観察をしよう（2回実施）

◇ 教師の支援と手立て

- ・ 採集活動は、学習の観察のためのものであることを事前に指導する。
- ・ 青木川の「せせらぎの広場」での水生生物の採集は、堤防の草刈りが済み、安全性を確認されてから行うように計画する。
- ・ 理科「季節と生き物」と関連付けて、虫眼鏡の正しい使い方を指導しておく。

「学校やその周りには、どんな生き物がいるの?」と、子供たちに問いかけた。休み時間や授業後にも、外遊びで生き物を見たり触れたりしている子供たちからは、次々と昆虫や魚、鳥の名前が挙がった。しかし、それらの生き物の生態や生息場所について尋ねると、カブトムシやクワガタ、川魚などを家庭で飼育している子が、少し説明できただけで、自然環境の中に生きる生き物という感覚が薄いことが分かった。そこで、学校の中や周りの自然の中で生きる生き物を採集し、観察して図鑑で調べることを提案した。知っているようで知らなかったことを自覚した子供たちは、目的意識を持って、採集に臨むことができた。

<実際に採集することができた生き物>

「せせらぎの広場」…カワムツ、カジカ、ヤゴ（オニヤンマ）、サワガニ、ナツアカネ、アキアカネ
「めだか池」…ドジョウ、おたまじゃくし、ヤゴ（カワトンボ）、マツモムシ、メダカ、イトトンボ
学級園…モンシロチョウ、アオムシ、ナナホシテントウ、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ
「常東ランド」…アブラゼミ、クマゼミ、オニヤンマ、ギンヤンマ、コオロギ、カナヘビ

採集後は、すぐに図鑑を使って調べる活動を行った。よく観察して生き物の名前を特定し、それがいた場所を記録させた。なお、生態については、難解な語句も多かったので、子供が理解できる簡単な説明を添える程度にとどめた。同じドジョウでも、体の模様や大きさの違いから、種類が違ってることなどに苦勞しながら、丁寧に観察をしていた。また、迷った末に、休み時間に、川魚に詳しい校長先生に教えてもらいに行った子供もいた。



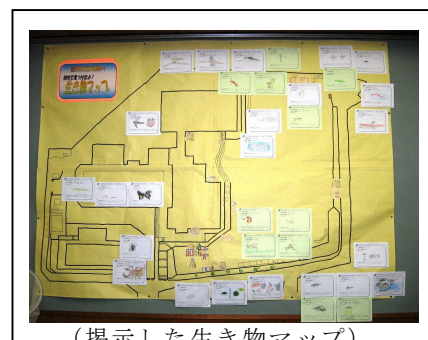
(図鑑を使って調べる)

(2) 生き物マップを作ろう (2回実施)

◇ 教師の支援と手立て

- ・学校と周りの施設を含む拡大白地図を用意する。
- ・2学期にも採集活動を行い、色を変えたカードで生き物マップに付け足しをしていき、季節によって見られる生き物に変化があることも意識させる。

B紙6枚大の拡大した白地図に、子供たちの作成した「見つけたよカード」を貼っていった。教室前のオープンスペースの壁面を利用し、いつでも見れるよう常掲した。



(掲示した生き物マップ)

(3) 地面の温度調べをしよう (2回実施)

◇ 教師の支援と手立て

- ・地面の温度の違いを予想させた後に、土の地面とアスファルト、草むらといった様子の違う地面や、時間の経過による変化なども予想させ、学習意欲を高める。
- ・地面の温度を計る時の正しい測り方を事前に指導する。

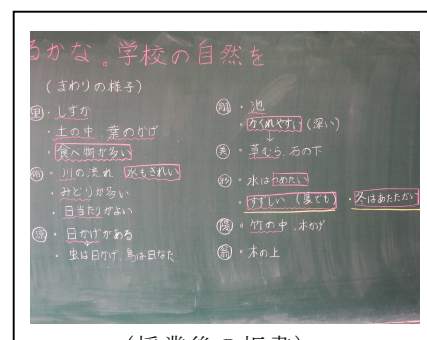
学級の子供8人で、4種類の地面のそれぞれ日なたと日かげを探させ、二人一組で協力して測定と記録をさせた。なお、この活動も夏と秋の2回行った。また、測定結果のカードは「生き物マップ」に付け足して貼った。

(4) 生き物が住みやすい環境について考えよう

◇ 教師の支援と手立て

- ・調べたことを基に考えさせるため、地面の温度調べを加えた「生き物マップ」を見る時間を設ける。
- ・生き物が多く生活している場所に、もう一度現地に行ってみてきてもよいことを補説する。

ワークシートを使って、生き物と住みよい環境について考える時間を作った。子供たちが挙げた、「生き物が住みよい環境」をまとめると以下のようなになる。



(授業後の板書)

- ・温度…夏は涼しい草むら、冬は暖かい土の中。
- ・水質…きれいな水
- ・その他…食べ物が多い場所。外敵から身を守れる場所。

4 実践を振り返って

豊かな自然の中で過ごす本校の子供たちにとって、生き物が住みやすい環境を考えることは、自然愛護の心を知る機会となった。当たり前のようにある豊かな緑だが、それを守ることが、人間や生き物たちにとっても大切になることを学べたと思う。

【様式1 実践事例】

実践事例

見出しはゴシック体にしてください

学習課題（国際、環境、福祉、健康、進路、郷土、その他）の中から選び、記入してください。

活動期間を記入してください

- 1 ねらい
- 2 実践の概要
- 3 実践を振り返って

- ・ 昨年度の事例集を参考にしてください。
- ・ 40文字×40行くらいをお願いします。
- ・ 項目は各校にお任せします。
- ・ 教師の支援、具体的な手立ての項目を設けて、実際にどのように授業を展開させたのかについて、分かりやすくまとめてください。
- ・ 写真や図などを積極的に活用してください。
- ・ 周囲余白は2cmあけてください。

【様式2 評価基準】

見出しはゴシック体にしてください

〇〇小学校の評価規準例

- ・ 内容は、昨年度の事例集を参考にしてください。
- ・ 周囲余白は2cmあけてください。

【様式3 学校の年間計画】

- ※各校で作成したものをそのまま掲載します。
- ※ただし、学校名が分かるようにしてください。